



全国医学部国際交流協議会
(旧: 全国医科大学国際交流センター連絡協議会)
News Letter Vol.4

**■第9回全国医科大学国際交流センター
連絡協議会・講演会 終了**

■全国医学部国際交流協議会へ名称変更しました。

内容

1. 幹事挨拶
衛藤義勝
山城雄一郎
2. 挨拶
第7回世話人
屋代隆
3. 挨拶
第8回世話人
茅野秀一
4. 挨拶
第9回世話人
千種雄一
5. 第9回協議会
プログラム
会場内の様子
6. 情報提供
7. 参加登録名簿
8. アンケート結果

1. 幹事挨拶

**第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会開催と
一般社団法人化に向けて**

全国医学部国際交流協議会
代表幹事 衛藤 義勝

第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会が平成30年7月13日(金)に栃木県の獨協医科大学で開催されました。理事長 寺野彰先生をはじめ学長代行 吉田謙一郎先生、副学長 平石秀幸先生、国際協力支援センター国際交流支援室長 千種雄一先生、センター長 大平修二先生以下、30名以上の体制で大学を挙げて開催されました。協議会も全体で110名以上の参加を頂き、本当に盛大な素晴らしい会にして頂き、感謝申し上げます。参加校も毎年増加し、活発な活動となって参りました。

今回特に特記すべきことは、本連絡協議会を一般社団法人化に向けて準備していることです。設立理事会を開催し、運営の定款、並びに役員(理事長、副理事長、常任理事、理事)を選任し、法人化に向けて議論を致しました。

また、会の名称に関して全国医科大学より全国医学部の名称の方が好ましい皆のご意見を頂き、次回より一般社団法人 全国医学部国際交流協議会に、本協議会10年目を記念して名称変更をすることに決定致しました。

国公立大学が更に参加され易くするために名称変更をしたわけですが、ただ今回議論のあつた医療系学部の参加も可能にして広く医療系大学、学部での国際交流を促進したいと考えております。

御承知のようにアジア諸国、特に中国、韓国、台湾、タイ等の諸国の経済的発展と共に医学研究、医療の分野でも目覚ましい発展が見られ、我が国の特に若い医師、医学生の国際的活動は内向な傾向があり、今後全国医学部国際交流協議会の役割は極めて重要な活動となります。

一般社団法人化により、更に組織が大きくなり、活動の幅が広がることを期待致しております。皆様の更なるご協力をお願いします。

第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会 に参加して

幹事 山城雄一郎
順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座

平成30年7月30日(金)午後2時から、獨協医科大学創立30周年記念館 関湊記念ホール・ホワイエに於いて、全国から50名余の参加者を得て開催されました。

先ず最初に、当協議会・講演会を1年前から準備された獨協医科大学、平石秀幸副学長、大平修二国際協力支援センター長、千種雄一国際交流支援室長(実行委員長)そして国際交流支援室高岡宣子先生、スタッフの方々に心より御礼申し上げます。

また、当会の開催にご理解と強力なご支援を頂き、当日は会場の最前列で熱心に演者の発表に耳を傾けて下さった寺野彰理事長へ、当会の代表幹事の一人として厚く御礼申し上げます。

準備委員会の方々は、学内関係者に留まらず、外部の当会の関係者と企画内容を検討された結果、実りある討論が繰り広げられ、内容に富んだ意義深い会となったと、深謝致します。今回のメインテーマが、“外国人医師の臨床修練制度の現状”として、外国人留学生の臨床研修の問題点について、特に臨床研修に伴う危機管理が討論の中心となりました。海外から日本を目指して、臨床研修目的で留学する若い医学徒はグローバル化の影響もあり、急速に増加しつつある現状に、未だ鎖国思想が残る日本の多くの医学部・病院は、彼らの受け入れ体制(指導者、カリキュラム、評価等々)が整備、確立されているとは言えず、正直、不慣れで対応は未だ手探りの感は免れない、との印象を受けました。

今後もこの様なプログラムを企画して、各大学がノウハウを交換していく事が重要で、当国際交流センター連絡協議会の重要な使命の一つと考えます。



獨協医科大学医学部



2.第7回世話人挨拶

第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会に参加して

自治医科大学名誉教授・帝京平成大学教授 屋代 隆

過日、獨協医科大学国際協力支援センター国際交流支援室がご担当されて、第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会が開催された。講演「外国人医師の臨床修練制度の現状」、さらに多くの大学から発表があったポスターセッションに引き続き、ミニシンポジウム「危機管理:外国人留学生・研修生・実習生のインバウンド保険について」が行われた。このミニシンポジウムの取りまとめを仰せつかったが、どこの大学にも共通する大変重要でかつタイムリーな課題であった。実際は、インバウンドに加えて海外で実習をする日本人学生の保険の課題も同時に論議されたのは当然の流れであった。

東京女子医大の杉下智彦先生には、「東京女子医大におけるインバウンド保険とリスクマネジメント」というタイトルで、インバウンド保険の比較検討、病院実習における感染管理、緊急性を要するリスク管理のケーススタディ」、という発表をいただいた。日本医科大学の山口文雄先生からは、外国人留学生受け入れ時の予防接種、滞在中の事故に関する保険とその補償範囲に関する多くの経験例を踏まえての、お話をいただいた。また、自治医科大学国際交流推進室の勝部恵氏には「危機管理マニュアル」を作成するときに経験した、「危機管理をおこなう国内の三社の特徴の比較、incomingの留学生に学研災の保険を強制加入させる意義」という実際的な経験をもととした、大変参考となるお話をしていただいた。その後、ざっくばらんに積極的な討議が行われたが、「連絡協議会」という本会の名前にふさわしい情報交換の場となった。このミニシンポジウムを企画された獨協医科大学の関係者に深く感謝申し上げる。



3.第8回世話人挨拶

法人化に思う

～Center's assembly から Collaborative assemblyへ～

埼玉医科大学教授
茅野 秀一

全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会も今年で第9回となり、獨協医科大学国際協力支援センター国際交流支援室のお世話で大盛況のうちに幕を閉じました。外国人医師の臨床修練制度についてのご講演、ポスターセッション、ミニシンポジウム「危機管理」と大変盛沢山な内容でしたが、どの参加校にも共通する重要な課題を扱っており、この会の意義を再認識された方も多かったのではないのでしょうか。出来上がったパンフレットを見ましても大変力の入ったもので獨協医科大学の先生方の協力体制の賜物とあらためて深謝申し上げる次第です。

パンフレットの表紙にJ-MICAのロゴがあったのにお気づきの方もあったかと思います。これは昨年埼玉医大で第8回をお世話させていただいた際、国際交流センター長の藤巻教授が、当会の英語表記をJapanese Medical University International Center's Assembly(J-MICA)とすることを提案したことに基づくもので、ロゴも衛藤先生とご相談して考えたのですが、今年も使っていただき大変うれしく思います。

第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会は節目の会となりました。衛藤先生、山城先生からお話がありました様に、一般社団法人化にむけて始動しましたからです。その後、理事の先生方から会の名称についてご意見をいただき、①(医科大学でない)総合大学の医学部も参加しやすくする、②国際交流「センター」の会議よりも国際交流を強調する、③連絡協議会の名称を呼称しやすくし「協議会」とする、といった観点から、「全国医学部国際交流協議会議」に名称変更することとなりました。

では会の英語表記をどうしましょう？ J-MICAを提案した埼玉医大国際交流センターとしては皆でいろいろと考えました。単に医学部だけの国際交流活動でなく、我が国の医療系大学、学部の国際交流の底上げにも貢献する旨が定款に記載されることになったように、当会の充実・発展のためには、全国レベルで「連携・協働」して広がりをつなげていくことが大切だと思います。そんな思いを込めて、J-MICAの略称はそのままに、Japanese Medical University International Collaborative Assemblyを全国医学部国際交流協議会議の英語表記として提案したいと思います。皆様、いかがでしょうか？



新しいロゴ: J-MICA

(Japanese Medical University International Collaborative Assembly)

4.第9回世話人挨拶

第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会 をおえて

第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会 実行委員長
千 種 雄 一

(獨協医科大学国際交流支援室／熱帯病寄生虫病学講座)

この度、第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会を平成30年7月13日(金)に獨協医科大学・創立30周年記念館 関湊記念ホール及びホワイエにおいて開催させて頂きましたので謹んでご報告申し上げます。

ご参加頂いた大学は国公立13校、私立18校の計31校で、御参加者は113名です。交通の便が良いとは言えない都心から100余kmの北関東の地にある本学に遠路お運び戴き、真に有難うございました。本学学長、組織委員会委員長(本学副学長)同副委員長(本学国際協力支援センター長)にかわり衷心より御礼申し上げます。

今回の講演会では、1)講演『外国人医師の臨床修練制度の現状』【演者:東京大学医学部附属病院国際診療部 田村澄人部長、座長:獨協医科大学公衆衛生学講座 小橋元教授】、2)ミニシンポジウム『危機管理:外国人留学生・研修生・実習生のインバウンド保険について』【シンポジスト:東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学講座 杉下智彦教授、日本医科大学大学院医学研究科脳神経外科地域医療システム学講座 山口文雄教授、自治医科大学国際交流推進室 勝部恵係長、座長:自治医科大学 屋代隆名誉教授】、3)ポスターセッション(9演題)、4)連絡協議会『協議会の今後の展望』【東京慈恵会医科大学名誉教授・脳神経疾患研究所先端医療研究センター長 衛藤義勝先生、順天堂大学名誉教授・順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座教授 山城雄一郎先生、座長:千種雄一】の学術講演等を企画させて頂きました。これらのプログラムでは演者の先生方の熱心な御発表と活発なご議論を戴き、本会を盛り上げて戴きました事に改めて御礼申し上げます。

今回の『協議会の今後の展望』の議論の結果を踏まえて、今後、本協議会は『一般社団法人 全国医学部国際交流協議会』として設立される事になりました事を併せてご報告申し上げます。

これらの学術セッション終了後には、地産地消をテーマに特産品を用いた料理や名産の飲み物などをご用意し、懇親会を開催いたしました。一日のお疲れを多少とも癒して戴けたのではないかと思います。

次回(第10回)は関西医科大学、次々回(第11回)は群馬大学を当番校として開催される事となりました。今後の全国医学部国際交流協議会において更に多くの皆様とお会いできる事を楽しみにしております。

それでは最後になりましたが、本講演会開催に多大な御支援及びご尽力を賜りました衛藤義勝、山城雄一郎、屋代隆、茅野秀一の諸先生はじめ多くの皆様に心より御礼申し上げます。

5. 第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会 プログラム及び会場内の様子

Japanese Medical University International Center's Assembly

第9回
全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会
Japanese Medical University International Center's Assembly

講演
外国人医師の臨床修練制度
の現状

ミニシンポジウム
危機管理
外国人留学生・研修生・実習生の
インバウンド保険について

平成30（2018）年
7月13日（金）
獨協医科大学・創立30周年記念館 関湊記念ホール・ホワイエ
栃木県下都賀郡壬生町北小林880

14：00～14：15 開会の挨拶
14：15～14：45 講演「外国人医師の臨床修練制度の現状」
14：45～16：00 ポスターセッション
16：00～16：45 ミニシンポジウム「危機管理：外国人留学生・
研修生・実習生のインバウンド保険について」
16：45～17：15 連絡協議会「協議会の今後の展望」
17：15～18：15 懇親会

お問い合わせ：
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880
獨協医科大学 国際協力支援センター 国際交流支援室
0282-87-2056
oia@dokkyomed.ac.jp
<http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/oia/kyougikai/index.html>

全国医科大学国際交流センター連絡協議会世話人代表幹事
衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学名誉教授）
山城雄一郎（順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座教授）
当番幹事
獨協医科大学国際協力支援センター国際交流支援室
組織委員会 委員長 平石 秀幸（獨協医科大学 副学長）
組織委員会 副委員長 大平 修二（国際協力支援センター長）
実行委員会 委員長 千種 雄一（国際協力支援センター 国際交流支援室長）



第9回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会
獨協医科大学 会場風景

6.【情報提供】

■アンケートに掲載された「ハワイ大学医学部が提供するセミナー」については、下記リンクよりアクセスすることができます。またメーリングリストに登録することにより、様々な情報提供を受けることができますとのことです。

<http://jrsl.or.jp/>

7. 第9回国際交流センター連絡協議会 参加登録者名簿

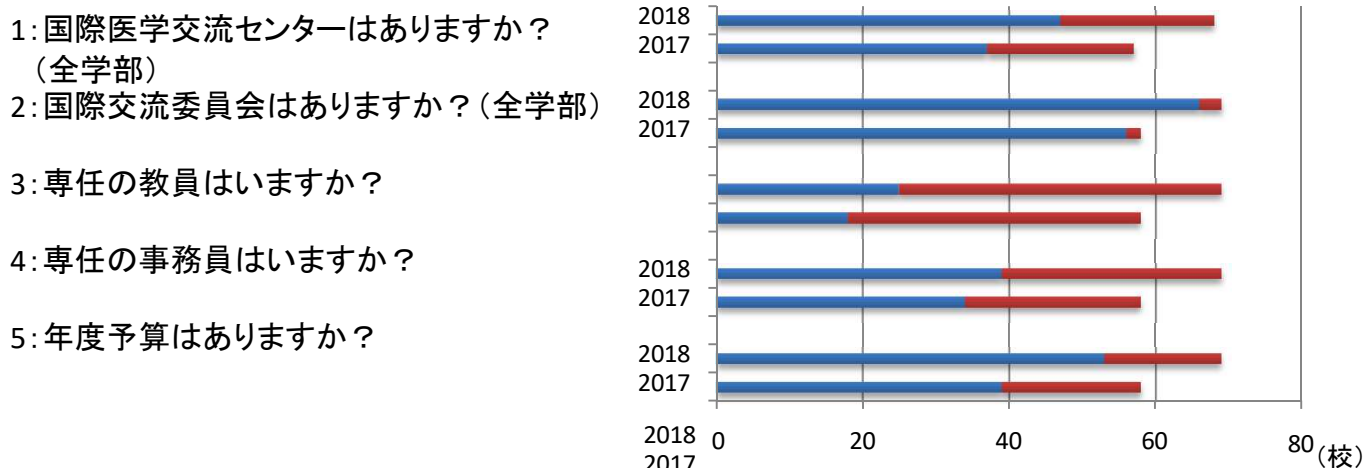
大学名	部署名	職位	お名前
東京慈恵会医科大学		名誉教授	衛 藤 義 勝
順天堂大学		名誉教授	山 城 雄一郎
旭川医科大学	国際交流	学長補佐	吉 田 貴 彦
大阪医科大学	中山国際医学医療交流センター	主任	武 田 千 賀
香川大学	医学部 国際交流委員会	委員長 教授	和 田 健 司
金沢医科大学	国際交流センター事務課	主任	前垣内 紀三子
金沢医科大学病院	病院職員課	課長	原 章 文
関西医科大学	国際交流センター	センター長 学長特命教授	鈴 鹿 有 子
関西医科大学	事務部学生課国際交流係	係長	木 村 英 樹
九州大学	大学院医学研究院	教授	康 東 天
京都府立医科大学	国際学術交流センター	センター長	水 野 敏 樹
京都府立医科大学	国際学術交流センター	主事	中 尾 麻悠子
群馬大学	医学系研究科 医学部	医学部長 医学系研究科長	石 崎 泰 樹
群馬大学	医学部学務課学事 学生支援係	係長	上 山 洋
埼玉医科大学	国際交流センター	センター長 教授	藤 巻 高 光
埼玉医科大学	国際交流センター	副センター長 教授	橋 本 正 良
埼玉医科大学	国際交流センター	教授	茅 野 秀 一
埼玉医科大学	国際交流センター	准教授	ゴッドフリー チャド
埼玉医科大学	国際交流センター	講師	種 田 佳 紀
埼玉医科大学	国際交流センター	事務員	斉 藤 雅 子
産業医科大学	国際交流センター	副センター長	浦 野 元
滋賀医科大学	国際交流支援室	主幹	助 川 晃 自
自治医科大学		名誉教授	屋 代 隆
自治医科大学	学事課 国際交流推進室	主事	江 角 真理子
自治医科大学	学事課 国際交流推進室	係長	勝 部 恵
聖マリアンナ医科大学	国際交流センター	センター長	松 本 直 樹
順天堂大学	国際交流センター	事務局長代行	吉 田 丘
順天堂大学	国際交流センター	主任	柳 由 紀
昭和大学	国際交流センター	講師	平 泉 由 香
昭和大学	国際交流センター	教授	橋 本 みゆき
昭和大学	国際交流センター	講師	マイク マイヤース
昭和大学	学事課国際交流係	係長	三 浦 健
千葉大学医学部附属病院	総務課総合医療教育係	職員	高 橋 志 保
帝京大学	大学院公衆衛生学研究科	准教授	高 橋 謙 造
東京大学	医学部附属病院	国際診療部長	田 村 純 人
東京大学	医学部国際交流室	講師	名 西 恵 子

東京医科大学	国際交流センター	書記	永田 彩
東京医科大学	国際交流センター		根 君 枝
東京慈恵会医科大学	国際交流センター	教授	芦田 ル リ
東京慈恵会医科大学	国際交流センター	事務員	新 保 恵
東京女子医科大学	国際交流委員会室	室長 教授	杉 下 智 彦
東京女子医科大学	国際交流委員会室	係長	大 黒 史 子
東京女子医科大学	国際交流委員会室 解剖学・ 発生生物学	副室長 講師	北 原 秀 治
東邦大学	国際交流センター	係長	川 野 千 佳
東邦大学	国際交流センター	センター長	舘 田 一 博
東北大学	大学院医学系研究科 国際 交流支援室	助教	齊 藤 麻理子
鳥取大学	医学部 法医学分野	教授	飯 野 守 男
名古屋大学	医学部国際連携室	室長	粕 谷 英 樹
名古屋大学	医学部国際連携室	特任助教	長谷川 仁 紀
名古屋大学	医学部国際連携室	特任准教授	Branko ALEKSIC
日本医科大学		教授	山 口 文 雄
日本医科大学	国際交流センター	センター長	新 田 隆
日本医科大学	国際交流センター	事務室長	荻 野 良 隆
日本医科大学	国際交流センター	事務員	王 姝
日本医科大学	国際交流センター	講師 校医	塚 田 弥 生
兵庫医科大学	国際交流センター		鳥 井 杏 子
福井大学	医学部	教授	藤 原 哲 也
福島県立医科大学	放射線物理化学講座	教授	石 川 徹 夫
福島県立医科大学		主事	武 藤 彩 歌
藤田保健衛生大学	国際交流推進センター	係長	神 原 祐 奈
北海道医療大学	国際交流推進センター	センター長	安 彦 善 裕
北海道医療大学	学術交流推進部	部長	小野寺 貴 洋
獨協医科大学		理事長	寺 野 彰
獨協医科大学		学長代行	吉 田 謙一郎
獨協医科大学	国際環境衛生室	助教	内 山 浩 志
獨協医科大学	精神生物学	准教授	松 尾 香 弥子

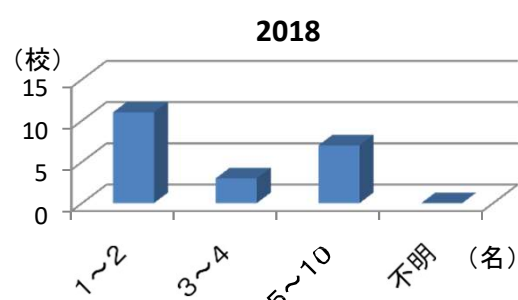
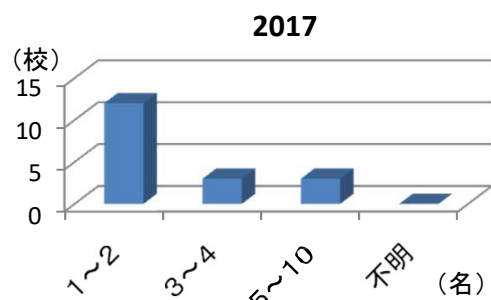
Japanese Medical School International Collaborative Assembly

獨協医科大学	放射線部	技師長	小 黒 清
獨協医科大学	放射線部	副技師長	蜂須賀 豊
獨協医科大学	放射線部	副技師長	杉 岡 芳 明
獨協医科大学	基本医学	講師	坂 口 美知子
獨協医科大学	公衆衛生学	教授	小 橋 元
獨協医科大学	公衆衛生学	准教授	春 山 康 夫
獨協医科大学	公衆衛生学	准教授	西蓮地 利 己
獨協医科大学	公衆衛生学	准教授	梅 澤 光 政
獨協医科大学	公衆衛生学	助教	長 尾 匡 則
獨協医科大学	熱帯病寄生虫病学	外国人研修生	Ian Kim Tabios
獨協医科大学	生理学(生体情報)	教授	神 作 憲 司
獨協医科大学	生理学(生体情報)	准教授	福 島 央 之
獨協医科大学	生理学(生体情報)	講師	加 藤 永 子
獨協医科大学	学生課	課長	池 上 佳 宏
獨協医科大学	国際疫学研究室	講師	杉 本 智 恵
獨協医科大学	第二外科	助教	櫻 岡 佑 樹
獨協医科大学	獨協医科大学	講師	小 川 真 人
獨協医科大学	病理診断	留学生	Tsengelmaa Jamiyan
獨協医科大学	放射線科	留学生	Tsengel Garbold
獨協医科大学	小児科	留学生	Miriam Bach
獨協医科大学		副学長	平 石 秀 幸
獨協医科大学	日独連携推進室	副学長	増 田 道 明
獨協医科大学	国際協力支援センター	センター長	大 平 修 二
獨協医科大学	日独連携推進室	特任教授	ヴォルフガング R. アーデ
獨協医科大学	日独連携推進室	教授	坂 田 信 裕
獨協医科大学	国際疫学研究室	教授	若 尾 宏
獨協医科大学	国際交流支援室	特任教授	竹 内 高 明
獨協医科大学	事業国際化推進委員会	委員長	金 彪
獨協医科大学	大学事務局	局長	若 松 昭 豊
獨協医科大学	大学事務局	局次長	大 森 幹 夫
獨協医科大学	大学事務局	学務部長	刀 川 昇 二
獨協医科大学	国際交流支援室	室長	千 種 雄 一
獨協医科大学	国際交流支援室	助教	高 岡 宣 子
獨協医科大学	国際交流支援室	講師	William G. Hassett
獨協医科大学	国際交流支援室	特任講師	クライト F. 伊藤
獨協医科大学	日独連携推進室	講師	能 登 慶 和
獨協医科大学	日独連携推進室	助教	寺 田 雄 介
獨協医科大学	国際交流支援室		小 林 繁 晴
獨協医科大学	国際交流支援室		菅 沼 裕 子
獨協医科大学	国際交流支援室		茂 木 尚 子
獨協医科大学	国際交流支援室		倉 持 清 香
獨協医科大学	総務部		鈴 木 浩 章
獨協医科大学	人事部		高 際 あや子
獨協医科大学	経理部		藤 沼 考
獨協医科大学	学務部		小 野 亨 麻
獨協医科大学	企画広報部		小 平 尊 之
獨協医科大学	看護学部		小 倉 栄 子

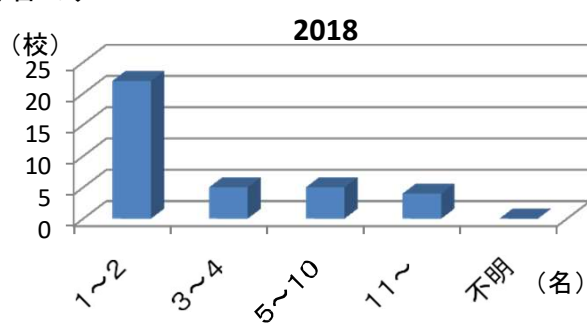
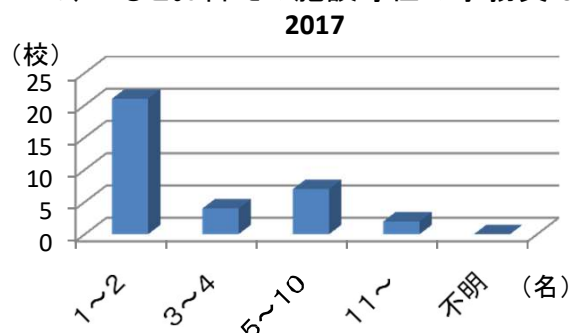
8. 国際交流センターに関するアンケート調査 (2018年6月実施)



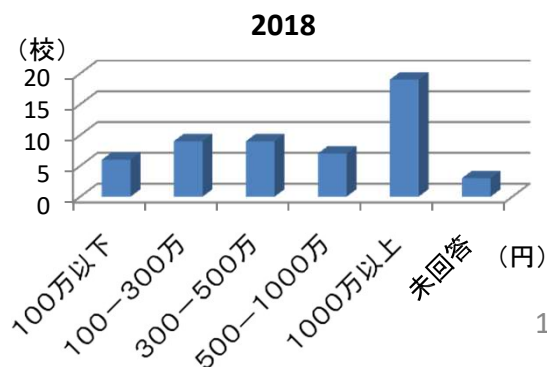
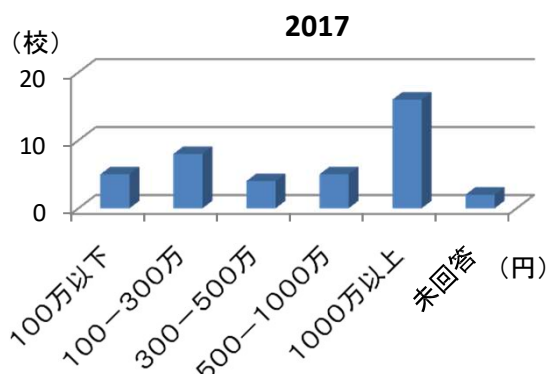
3': 3にて、いるとお答えの施設 専任の教員は何名ですか？



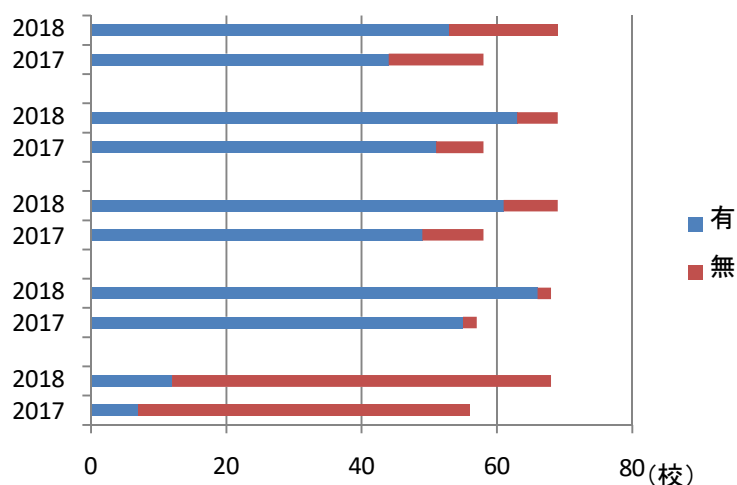
4': 4にて、いるとお答えの施設専任の事務員は何名ですか？



5': 5にて、あるとお答えの施設予算はどのくらいですか？

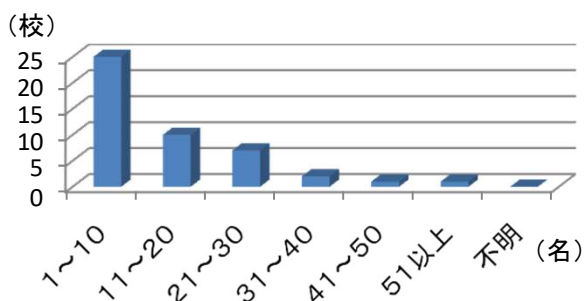


- 7: 医学生の留学生は毎年きますか？
- 8: 大学院生の留学生は毎年きますか？
- 9: 留学生の宿泊施設はありますか？
(全学部)
- 10: 外国大学と連携していますか？
- 11: ハワイ大学での教育コースに参加していますか？

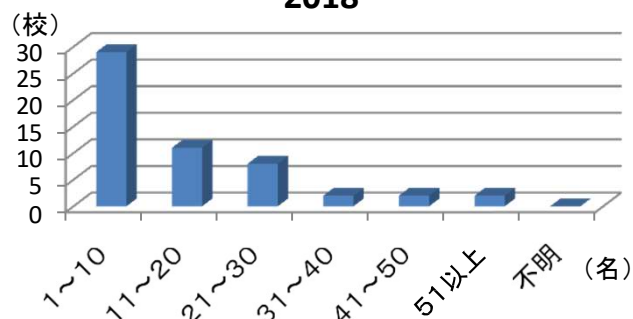


7': 医学生の留学生は毎年何人きますか？

2017

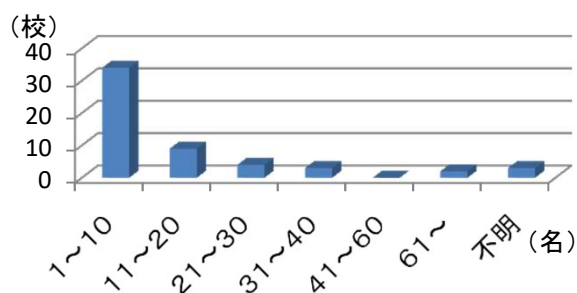


2018

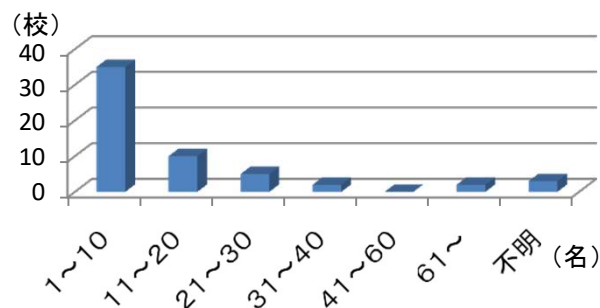


8': 大学院生の留学生は毎年何人きますか？

2017

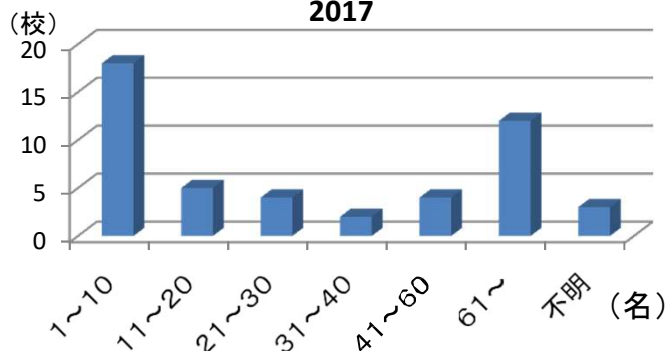


2018

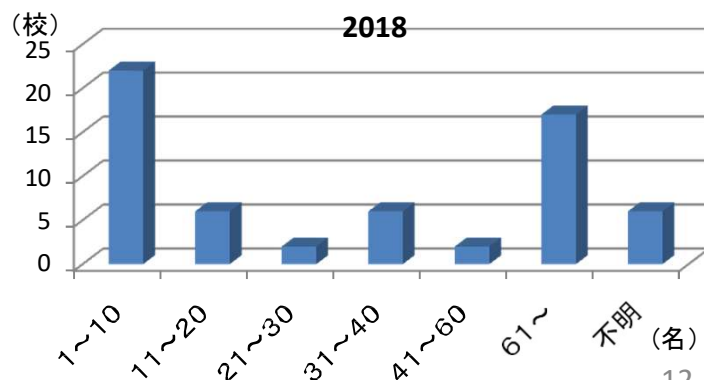


9': 留学生の宿泊施設はどの位の規模ですか？ (全学部)

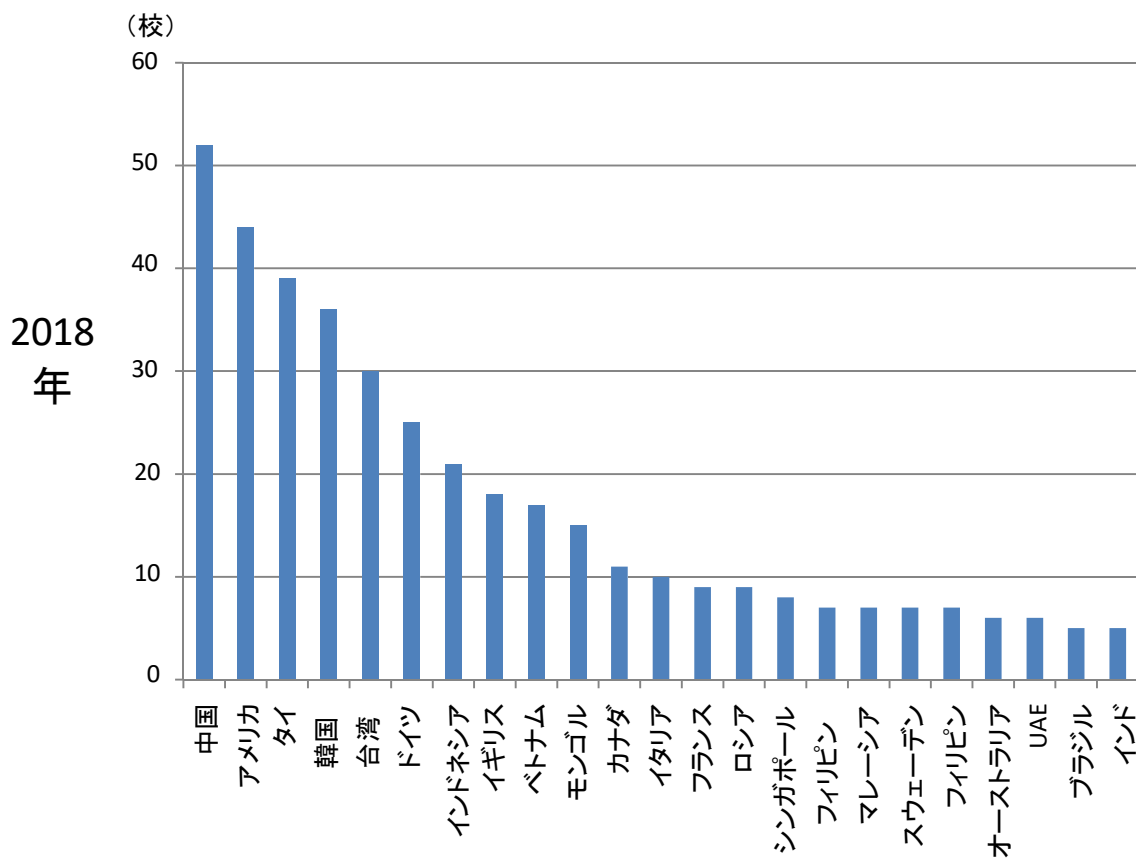
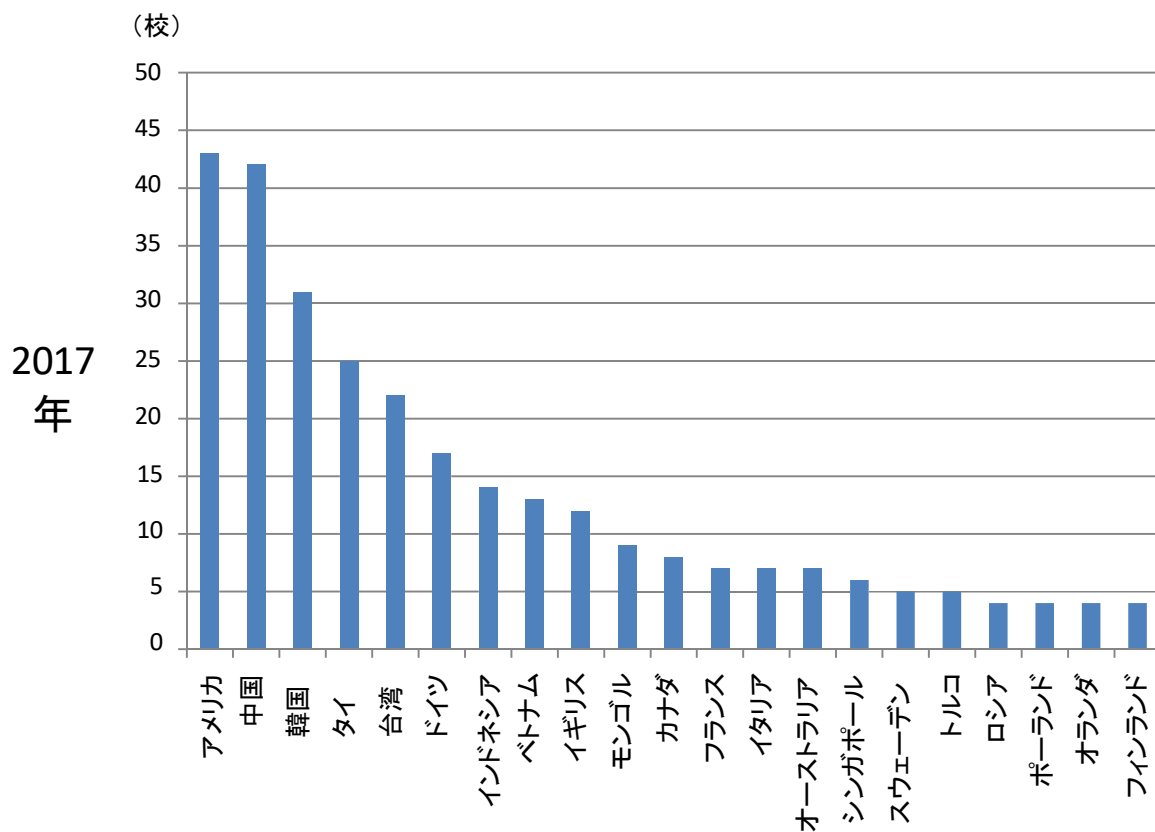
2017



2018



10' : どちらの外国大学と連携していますか？



12: 現在、国際交流事業としてどのような取り組みを予定しているか。

・協定大学との交換留学(短期・長期)、シンポジウム開催、交流プログラム(研究室配属・臨床実習)	30校
・留学生交流事業	22校
・研究者受入・派遣	15校
・海外協定校の拡充	11校
・国際シンポジウム、セミナー、学術集会の開催	10校
・医学生の臨床実習相互派遣 (6年次の実習先として海外施設で行う事も推奨している。)	7校
・海外研修プログラムの実施	7校
・留学生への助成	6校
・共同研究	5校
■ 自校の英語HP・パンフレット・プロモーションナルビデオ作成、海外研修業績集の作成など海外広報	4校
・ダブルディグリープログラム(予定含む)	3校
・語学教育(TOFEL・ITPなど)	3校
・低学年を対象とした海外英語実習	3校
・さくらサイエンスプログラム	3校
・教職員受入・派遣	3校
■ JICA /JST事業の展開	2校
・留学報告会	2校
JICA研修受け入れ(アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政)など	2校
・国際学術交流事業に対する助成	2校
・その他	

- 学生、外国人研究者受入体制の整備、補助事業
- J-GRID事業
- 海外拠点設置
- 特別外国人大学院生の受入れ
- 姉妹校とのJoint Scientific Meeting
- ネイティブのSPIによる医療面接授業
- 国際遠隔講義
- 海外プログラム自主研修
- 授業の3分の1を英語で実施する
- 国際交流事業の制度化及び定期的見直し
- 「国際化推進プラン2018」を策定し、教育・研究・臨床の側面から、国際化の取り組みを学内に根付かせる仕組み作りを進めていく。
- 海外に向けた情報発信ツールとして、国際交流センターWEBサイトを強化していく。
- JICA草の根協力事業
今後増加が見込まれるRMCP(リサーチマインド涵養プログラム)における海外の研究機関への在学生派遣に対応するべく、既存の教育支援組織に国際交流部の部門を設置することとした。
- JSPS国際交流関連事業
- 海外自主研修
- 留学生受入れに関して、感染症対策の強化を予定しています。

13: 今後の国際交流連絡会への希望。

- 事務担当者間の意見交換
- 事例紹介の機会を設けていただけると有益と思われます。
- 交換留学に際してどのような経済的支援を行っているか、各大学の取り組みを知りたい。
- 情報共有の場
- 他大学での短期留学生受け入れ(単位取得あり)の情報交換
- 危機管理マニュアルの整備状況、安全保障貿易管理の体制整備状況、国際交流に係る学内体制、予算確保策などについての情報共有
- 経済通産省の求める安全保障輸出管理について、研究者交流や留学生受け入れ時に各大学がどのように対応されているか知りたい。
- 引き続き危機管理に関する情報交換等ができればよいと思います。
- 学生の受入れ、派遣における危機管理について情報を得たいです。
- ① 交換留学先の選定方法や提携へのアプローチ② 渡航費、滞在費の補助について、各校に尋ねたいと思います。
- 留学生宿舍、短期研修受入時の研修プログラム、留学生の経済問題等に関する具体的な課題について各校の取組を伺いたい。
- 戦略的な受入・派遣の奨学金についての講義
- 危機管理や疾病・精神管理などの講習会の実施
- 医学部の国際交流に関するネットワーク(相互の情報共有)の強化 2件
- 国際交流連絡会の連絡網またはメーリングリストの作成を希望します。2件
- 各校の国際交流事業の取り組み紹介
- 各校の学術交流協定先(許す範囲で)の紹介
- 医学部特有の問題の解決のために役立つと考えますので、引き続き参加したいです。
- 医科大学特有の情報交換ができ、非常に有意義である為、引き続き開催してもらいたい。
- 各大学の取り組みを参考にしたい。情報収集のため、なるべく参加したい。
- 可能な限り参加します。
- 交通アクセスが良い開催地をご検討いただきたい。
- 戦略的な受入・派遣の奨学金についての講義。